

1. 矢板市の概要

矢板市のあゆみ

矢板市の最初の先住民の存在は約1万年前と推測され、高原山南麓から、当時の人々の生活の様子を示す石器などが出土しています。

中世には、貴族から武家社会への推移の中で「堀江氏」が登場し、やがて「塩谷」姓が生まれ、周囲を治め、塩谷の大地に数々の足跡を残しました。

江戸時代には、矢板地域は幕府直轄地となりましたが、やがて細分化され、様々な領主に支配されました。

明治に入り、市町村制の実施により「矢板村」「泉村」「片岡村」が設置され、同28年、矢板村は町制を施行しました。

また、同17年に国道4号が、同19年には東北本線が相次いで開通し、矢板に駅が設置されると急速に発展し、塩谷地方の中心地として、また高原山などの林産物の集散地としても重要な拠点となりました。

昭和に入ると、矢板町は旧野崎村の一部を編入、同30年1月1日、矢板町、泉村、片岡村は合併して矢板町を設置、同年4月1日、旧片岡村大字松島を氏家町に分合して、同33年11月1日に市制を施行して矢板市となりました。同40年には、活発な工業立地が興り、人口の社会増

加に伴い市街地の形成が促進されました。

現在では、豊かな自然環境と恵まれた交通条件により県北の中核都市として発展してきましたが、一方で都市景観の形成や、自然環境と都市環境の共生、交通問題などの新たな課題も現れてきています。

今後も、このような課題に取り組みながら、市勢の持続的発展を目指したより良いまちづくりを進めていきます。



矢板武記念館のシダレザクラ

地勢と位置

本市は、栃木県の北東部に位置し、県都・宇都宮市から約32km、東京から約140kmの距離に位置しています。市の総面積は約170km²です。

北へ向かえばすぐに那須野が原の原野があり、東には喜連川丘陵がゆるやかに続き、西には日光国立公園の一角である高原山が雄大にひろがり、三方が山や丘陵にかこまれています。

北部は、高原山へ続く森林地帯となっており、中南部は、箒川、内川、荒川などの河川が流れ、豊かな田園風景となります。

晴天時には、どこからでも高原山を眺めることができ、四季折々の風景によって自然の恵みを感じることができます。また、北は那須塩原市、南はさくら市、東は大田原市とさくら市、西は塩谷町に接しています。

■ 矢板市の位置

市役所位置：東経 139度55分27秒
北緯 36度48分24秒
標 高：196m42cm



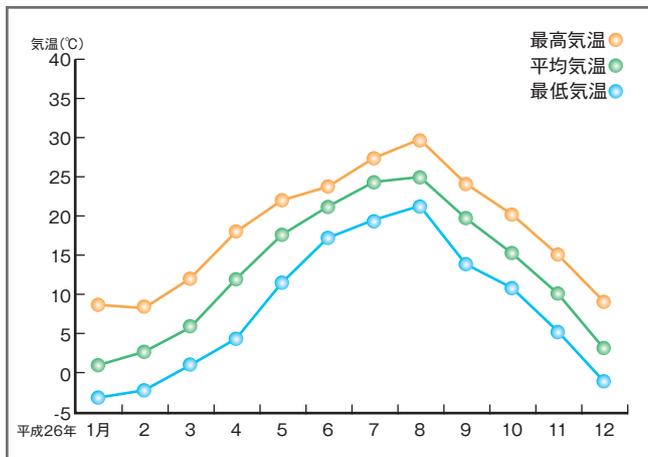
気候

本市の気象は、夏は高温多湿、冬は低温乾燥の典型的な大平洋岸気候です。平成26年の平均気温は13.3℃で、夏期(6～8月)が23.6℃、冬期(12～2月)が2.3℃です。年間降水量は1,725mmです。

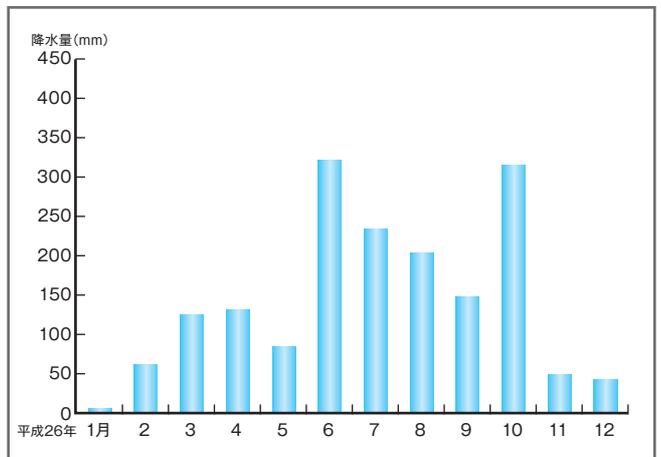


八方ヶ原のレンゲツツジ

■ 気温変化の状況



■ 降水量の状況



人口

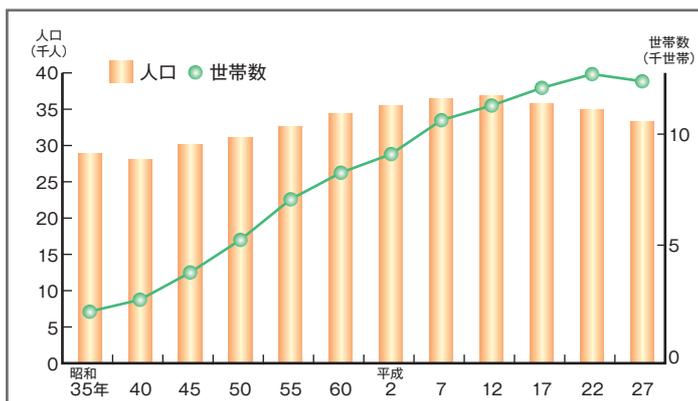
本市の人口は、昭和43年以降着実な人口増加傾向を継続していましたが、平成10年に37,074人(10月1日現在)になったのをピークに人口減少に転じ、平成27年では33,362人(10月1日現在)となっています。世帯数は増加していますが、1世帯あたりの人口は少なくなり、昭和30年代には5人以上でしたが、近年では約2.7人となり、核家族化が進行しています。

人口集中地区は、昭和35年に中心市街地に設定され面整備の進行とともに拡大し、平成22年では、約

345haになり、その地域には、11,158人(本市の人口の約31.6%)が居住しています。

※人口集中地区：人口密度が40人/ha以上の国勢調査地区が隣接して、5,000人以上の人口が住んでいる地域。

■ 人口・世帯数の推移



■ DID変遷図

